

日本食肉加工情報

毎月1回発行

2

2026 FEB.

No.908

CONTENTS

●特集

段ボール産業の現状と環境への取り組み

●窓

第121回 株式会社ネクスト

代表取締役 丸山 公房

「「ハム工房」(公房)という名のハムづくり ―株式会社ネクスト 創業17年の歩み―」

●業界をめぐる動き

- ・1月役員会の開催報告
- ・(一社)食肉科学技術研究所 臨時総会の開催報告
- ・4団体合同新年賀詞交歓会の開催について
- ・支部だより ～関西支部だより～
- ・HACCPシステムに基づく衛生管理講習会(食肉製品)の実施報告
- ・関係省庁からの情報提供など(会員組合員宛配信情報)
- ・食肉科研(KAKEN)コラム #122

●ひろば

第116回 薩摩ハム株式会社

●海外情報

ブラジル 25年1～10月豚肉輸出量は引き続き好調



SPECIAL
EDITION

特集

段ボール産業の現状と環境への取り組み

全国段ボール工業組合連合会 インキ集約WG

段ボール産業と環境対策

段ボールは1856年に英国で帽子の汗止め用裏打ち材として開発されました。その後、米国でわらやおがくずに替わる緩衝材としてガラス瓶や石油ランプのガラス管などの輸送に使用され、日本では、1909年にレンゴー(株)の創業者井上貞治郎が綿織り機を応用して、ボール紙に連続した段の製造に成功し、段ボールと命名されました。段ボールの生産量も経済成長に伴い、順調に増え、現在に至っています。

一方で、経済成長に伴い、家庭から排出されるごみの量の増加は拡大し、一般廃棄物の最終処理場が逼迫、その対策と

して、政府は家庭から排出される容器包装を資源として有効に利用することを目的とした容器包装リサイクル法が1997年4月に施行されました。容器包装の削減(Reduce)、再使用(Reuse)、リサイクル(Recycle)、いわゆる3Rは事業者が対処すべき課題とされるようになりました。段ボール産業においては、主にリデュースとリサイクルの2つの分野で推進されていましたが、昨今では、段ボール産業も他の産業と同様に、地球温暖化対策、物流問題等の多岐にわたる課題への対応が課されてきています。

続きは定期購読で！

定期購読のお問い合わせ

一般社団法人日本食肉加工協会 日本ハム・ソーセージ工業協同組合 総務部

TEL : 03-3444-1211 FAX : 03-3441-8287 E-mail : ask@hamukumi.or.jp